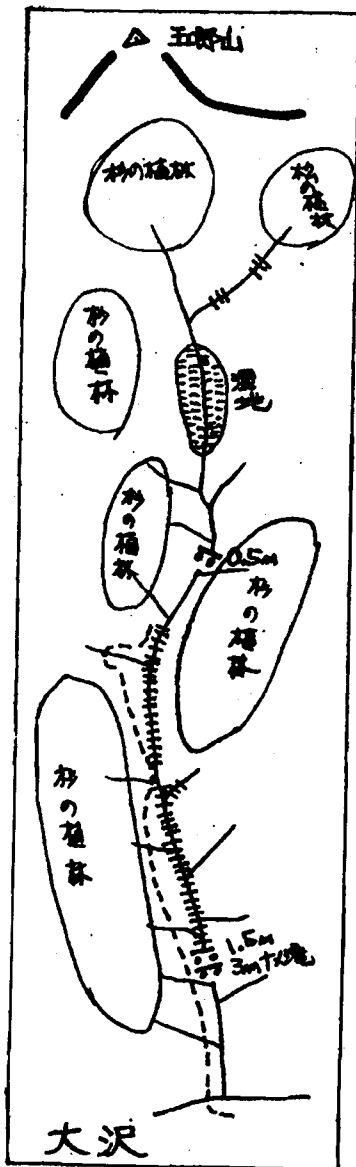


である。こちらの沢には伐採の手が及んでいないのかと思って登りはじめたのだが、すぐに明るい植林地となる。

2mの滝があって、直登するがあとはまた平凡。左岸には林道も出てきた。30分程遊行して二俣となった所まで行って引き返す。 (真 文)

[タイム] 後沢橋(10:00)→遊行終了(11:00)



後沢右俣

1983年9月18日

11:20遊行開始。右俣にそった樹林帯では檜の木の抜きざりが行なわれている。この沢も平凡。ただほかの後沢流域の沢とは違って、ずっと樹林帯の中であった。30分で種子部落と七ヶ宿を結ぶ林道に出て遊行を終える。

[タイム] 出合(11:20)→遊行終了(11:50)

大沢

1983年10月29日

朝方天候が一時良くなったので、軽い沢登りを楽しもうと茂庭に向かっていたら、途中から小雨が降ってきた。引き返す気にもならず、雨具をつけて大沢をめざす。

板谷沢登り林道入口に車を止めて、大沢出合へと歩く。10分程で出合着。右岸にだいぶ荒廃の進んでいる林道があるので、しばらくはそれをたどる。沢登りの兩岸にはスギやアカマツが植林されている。

林道終点から沢に入る。すぐにナメも終わり、ヤブコギの沢登りとなる。湿地の中を沢が流れている所を

進めると二俣となる。ここに七ヶ衝への道があった。

右俣に入る。所々ナメが出てくるが、水の流れはもうチョロチョロである。水が濡れた所で沢から上がり、植林地の中を10分程のヤブコギで尾根に出る。

(記・.....)

【タイム】 大沢出合(11:45)→林道終点(12:20)→二俣(13:05)→尾根(13:25)

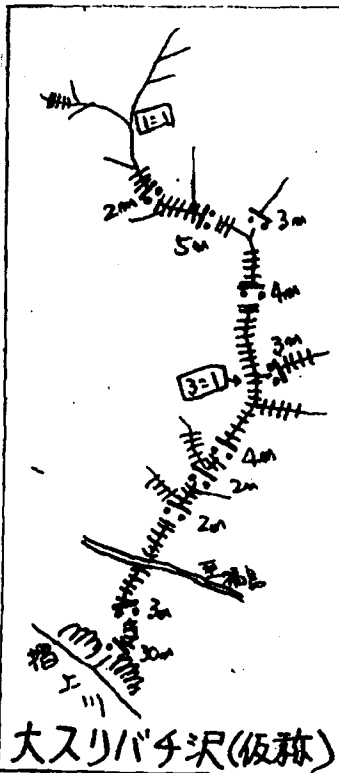
大スリバチ沢(仮称)

1983年7月10日

L

座頭沢の源頭から尾根を越えてスリバチ沢(仮称)に降りる。しばらくは細い平凡な沢が続く。たいして期待もせずに出てゆくと、次第に沢幅が広がり、ナメが始まった。

私はナメの連続する明るい沢は大好きである。美しいナメを快適な足取りで下っ



てゆくと、初めに2m、しばらくして5mのナメ滝がある。この滝の中央を下りながら記念写真を1枚撮ってもらおう。この先も小さなナメ滝がところどころにあり、小さいながら深い釜をもっている。

12:35左から2mの滝をもったナメ沢が注ぐ。この沢は支沢も含めて全体がナメ沢となっているようだ。ミズナを探りながらナメと小さなトロの連続をリズムカルに下る。

13:05国道399号線の暗渠をくぐりぬけて、その下を見にゆく。3mの滝を下って5分も進むと、アッと驚くド迫力で沢はすっぱり切れ落ちている。落差はゆうに30mはあるだろう。深い掘上川の川床を眺めて、また国道に戻る。

連続する美しいナメが、最後に突然大滝となってふりそそぐ楽しい沢だった。(記・.....)

【タイム】 下降開始(11:45)→国道(13:05)